

早わかりテロ特措法

(テロ特措法に賛成してよいものか反対すべきかわからないあなたへ)

テロ特措法とは？

正式名称



「平成十三年九月十一日のアメリカ合衆国において発生したテロリストによる攻撃等に対応して行われる国際連合憲章の目的達成のための諸外国の活動に対して我が国が実施する措置及び関連する国際連合決議等に基づく人道的措置に関する特別措置法」
何だか言い訳がましく長い名称ですが、平たく言えば「9.11テロの仕返しのためにアメリカが始めた戦争に、テロとは無関係の日本が協力させられるための法律」です。

実際にはどんなことをしている？

自衛隊の補給艦をはるかインド洋まで派遣して、クエートにあるアメリカ系の石油会社から高い値段で買った燃料を積み込み、それをまたイラクやアフガニスタンを攻めているアメリカの軍艦にタダで補給しています。



どこがおかしい？

アメリカが直接自国の石油会社から燃料を購入すれば簡単にすむことを、わざわざ使いっ走りのようなことをさせられて、その上大事な私たちの血税までアメリカに巻き上げられています。いつから私たちの国はこんな情けない国になってしまったのでしょうか。

法律を作った人達は何と言っているのでしょうか？

この馬鹿げた法律そのものの不合理さは隠せようもないので、彼らは盛んに「国益」とか「国際貢献」と言っています。

「国益」って何でしょう？

辞書では「国の利益」となっています。でもこの法律の結果私たちの血税が湯水のように使われています。財政危機を理由に医療費を削られ、年金を削られ、消費税の値上げを脅されている庶民にとってこの法律は「国益」ならぬ「苦役」でしかありません。そんなお金が一体どこにあるのでしょうか。誰がどんな利益を受けているのでしょうか。私たち庶民にとっての「国益」とは医療や福祉の充実した平和な国が築かれることです。戦争に関わってろくなことはありません。

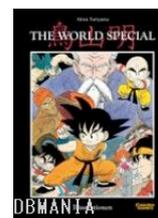


真の「国際貢献」とは？



戦争の片棒を担ぐ「国際貢献」というものがあるのでしょうか。「国際的な評価を受けている」などと言ってますが、それは戦争をしている親分への「貢献」であり、親分からの「評価」です。戦争の相手や戦場になっている国にとっては「貢献」や「評価」どころか憎悪や復讐の対象でしかありません。

一方戦後の平和国家日本が営々として作り出してきた製品や文化はどうでしょう。質の高い日本製の車や家電品は世界中の人の役に立ち、間違いなく「国際的な評価」を受けています。アニメやマンガは今や世界中の人々を楽しませています。これこそ真の「国際貢献」ではないでしょうか。



テロ特措法に賛成してよいものか反対すべきかわからないあなたへ

今までの説明でこの法律が御理解いただけただけでしょうか。この法律を推し進めようとしている人達は、世論（調査）の動向を横目で見ながら、さらに恒久的なものにしようと考えています。もしあなたがただ何となく賛成というだけなら是非とも思い直して下さい。あなたが反対に回ってくれるだけで、そして周りの人達にこの法律の真実を伝えてくれるだけで、この馬鹿げた法律を葬り去ることができます。一人一人の力は弱くてもみんなが力を合わせれば大きな力に対抗できるはずですよ。

*御自由にコピー、プリントアウトして下さい。